

# 被害者家族とのつながりとふれあいを大切に



## 入社理由 NASVAは私にとっての天職

幼い頃から「人の役に立ちたい」という想いが強く、大学はカウンセリングへの興味から心理学科へ進学しました。そして大学での勉強や部活動、アルバイトを経験する中で社会に貢献できるような業種、特に子どもや困り事を抱えている方と関わる仕事に就きたいと希望するようになりました。そのような中でたまたま出会ったのがNASVAでした。事故防止のためのドライバーさんへのカウンセリング、事故に遭われた方やご家族の心のケア、そして交通遺児とのふれあいの場の企画・運営…事故防止や被害者援護を通じて社会に貢献するNASVAの仕事は、知れば知るほどここで働きたい！という意欲を掻き立てるものでした。「NASVAは私にとっての天職だ！」と採用試験に臨んだ3年前の選択は、人生における最高級の英断だったと確信しています。

## 業務の役割 「寄り添うNASVA」を实践

最初に配属された東京主管支所では、被害者援護業務を担当していました。NASVAの被害者援護業務は多岐に亘りますが、中でも自動車事故で重度の後遺症を負われた方へ支給している介護料制度の受付や、介護料を受給されているご家庭を訪問し生の声を聞かせていただく訪問支援、一家の大黒柱を亡くされたお子様の健やかな育成・交流を図る友の会の企画立案などを中心としていました。

現在は千葉療護センターの医事課に所属しており、検査外来の予約対応や保険請求など一般的な医療事務に加え、重度の脳損傷患者様を介護されているご家族に休養を取っていただくための短期入院の受付を担当しています。千葉療護センターの短期入院を利用される方は東京主管支所でも関わりのあったご家庭が多いため、ご家族の方からは今でも気さくに声をかけていただいています。「野間さん！久しぶりね～」と笑いかけてくださるご家族に出会う度、今も援護の仕事が続けていることが本当に嬉しく思えます。



## 学生へのメッセージ 目標は被害者援護業務のエキスパート

あらゆる業種に共通でしょうが、仕事とは常に求められるものが変わる、明確な答えやゴールが存在しないものです。私はその中で「自分に何ができるか」「相手が何を求めているか」を考え、実行していく積み重ねが、将来の自分を作っていくと信じています。

知識・経験はもちろん、人間としての器もまだまだ未熟な私ですが、現在は「被害者支援専門員(コーディネーター)」という社内資格を取得し、被害者援護業務のエキスパートになることを目標に日々の業務に向き合っています。いつかその目標に到達した時、私と仕事をしているのは今、この文章を読んでくださっている方かもしれませんね。

「あなた」と一緒に仕事ができる日を、NASVAで心からお待ちしています。



### 野間 千尋 ノマ チヒロ 千葉療護センター医事課

平成22年10月入社 文学部心理学科卒

東京主管支所被害者援護担当を経て、平成25年4月に千葉療護センター医事課へ異動(休日の過ごし方や趣味) 旅行が好きで、いつか47都道府県を制覇したいと考えています  
最近料理にも励んでおり、昨年のクリスマスケーキを自作したことは密かな自慢